

第62号

酪農

とちぎ



### ～ 熱中症に注意しましょう! ～

1. 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行いましょう。
2. 水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給しましょう。
3. 気温が著しく高くなりやすい施設内での作業中については、特に気をつけましょう。



# 酪農とちぎ第9回通常総会

総会制へ移行し最初の総会となる「第9回通常総会」を六月三十日、高根沢町民ホールにおいて百七十八名が出席し開催致しました。定刻に書面議決（四百四名）を含め定足数を満たし、坂主副組合長が開会を宣した後、菊池組合長は「初回となる全員総会に出席頂いた事にお礼を申し上げます。また、先程表彰された方々を筆頭に、日頃より、安全・安心な良質乳生産と酪農経営安定向上にご尽力いただいていることにつきまして、



敬意と感謝を申し上げます。昨年は飲用乳価の値上げがありました。が、牛乳の消費低迷、加工率の増加に伴いバター及び脱脂粉乳の期末在庫が適正水準を大きく越える状態が続いており、本年度は生乳の需給均衡を図り販売乳価を維持するため、皆様のご協力を頂き減産型の計画生産を実施致しました。また、直近の生乳販売状況についてですが、現在も消費が低迷しており、加工率の増加により昨年より販売乳価が下がっていますので、今後も消費拡大運動を継続して行く必要があります。宮崎の口蹄疫については落ち着きを見せているものの、今後の動向が気になる所であります。組合と致しまして義援金のご協力と各戸の防疫対応・記帳を継続して頂くことを御願致します。組合においては、四月より業務体制の再編、乳代手数料・賦課金の導入を行い、組合運営の

透明性を確保しながら各事業の方向性を見極め、組織の活性化につながるよう努めてまいります。最後に、本日の議事につきまして、慎重な審議をして頂きますようお願い致します。」と述べました。議長団には松山政義氏（那須烏山市）長谷川賢一氏（大田原市）が選任され、議事を進行して頂きました。第一号議案は、執行部が平成二十一年度の事業実績の詳細な説明を行い、熊谷代表監事の監査報告の後に可決され、第二号議案から第三号議案については市町村合併に伴う変更と理解頂きました。また、第四号議案から第五号議案については事業計画の目的・根拠等、費用の透明化を図るため新設した賦課金の額、賦課方法等について説明を行い承



議長の松山政義氏（左）、長谷川賢一氏（右）

## 当日の出席状況

組合員数

六四三名

本人出席数

一七〇名

代理出席数

八名

書面議決

四〇四名



## 主な質疑・意見要望事項

- ① 積極的な各種イベント参加による消費拡大運動の実施
- ② 女性役員の登用について
- ③ 役員定数の削減について



ご意見ご要望



## 第8回乳質共励会表彰者名簿

表彰区分	支所名	組合員名	県表彰	連続賞
最優秀賞	宇都宮支所	小口 誠一	知事章	3年連続
優秀賞	県南支所	伊沢 琢磨	農政部長賞	
	那須高原支所	北向 秀雄		
	〃	猪瀬 良一		
	〃	人見 一男		
	〃	田代 和一		2年連続
	〃	人見 浩美		
	〃	小針 秀夫		8年連続
	〃	前田 宏幸		7年連続
	宇都宮支所	山本 修		
	県南支所	加藤 俊雄		5年連続
	那須高原支所	人見 みみ子		2年連続
	〃	後藤 浩		
	宇都宮支所	森林 豊		
優良賞	那須高原支所	根本 勝浩		
	〃	荒井 則夫		
	宇都宮支所	小林 幸雄		
	那須高原支所	岸 一明		
	〃	菊地 勇		
	〃	菊地 清一		
	宇都宮支所	岡本 秀治		
	県南支所	三柴 秀夫		
	那須高原支所	井上 徹男		
	〃	佃エイブルファーム		
	〃	奥田 一男		
	〃	久保 幸雄		
	県南支所	小倉 通保		
	那須高原支所	渡辺 昭一		
	宇都宮支所	鈴木 和昌		
県南支所	佃岡田牧場			

\* 表彰区分毎・支所別に順位。また、同点の場合は順不同となっています。

通常総会議案の審議に先立ち、  
乳質共励会が開催されました。受

賞された方々に敬意を表し、謹ん  
でお祝い申し上げます。

# 第8回（平成二十一年度） 乳質共励会表彰



# 県民の日記念式典

菊池組合長が平成二十二年  
度  
産業振興功労受賞

産業振興功労受賞

六月十五日の県民の日に、栃木県庁東館四階講堂にて県民の日記念式典が行われ、地方自治功労・社会福祉功労・産業振興功労をはじめとする各種の功労表彰が行われ、菊池組合長が産業振興功労を受賞致しました。組合長は、永年



受賞写真



集合写真

にわたる酪農協及び関連団体の役職をつとめ、酪農振興の功績が認められ産業振興功労を受賞する運びとなりました。当組合の組合長が受賞されたことを誇りに思うとともに、さらなる酪農発展に向けてご尽力を願うところです。尚、今年度の受賞者は五十四名の他、優良団体・学校等が表彰されました。

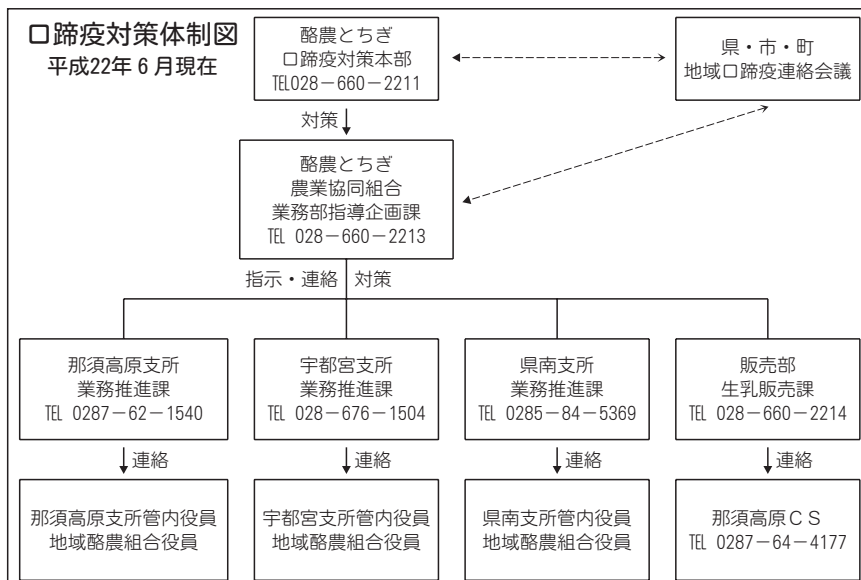
## 組合口蹄疫発生時 対応マニュアルを作成

本年四月に宮崎で発生した口蹄疫は伝播力が強く、大きな被害をもたらしました。

口蹄疫が本県・近県において発生した場合、特にその初動対応（迅速かつ円滑な対応）が重要であるため、口蹄疫発生時対応マニュアルを作成致しました。今後、この内容に基づき対応することになりますのでご承知願います。

◇主な内容

- 対策本部の設置
- 設置事項
- 口蹄疫発生時の未然防止・点検
- 口蹄疫発生時の情報収集分析・対策
- 行政・関東生乳販連・乳業者への状況報告
- 報道関係者取材等の対応
- 消費者・取引業者への対応



- ・その他必要事項
- 構成・運営
- ・対策本部は代表理事組合長・代表理事副組合長・専務理事・総務部・販売部・業務部・支所で構成し、事務局は本所業務部指導企画課



# 東西南北

## 那須高原支所

### 環境美化運動(花の苗配布)

支所活動推進協議会(中島隆会長)では、本年度最初の事業として、六月十日に花の苗配布を行いました。配布については、畜舎周辺の環境美化向上を目的として毎年実施しており、今年も三種類の花の苗(インパチェンス十五本・ベコニア十五本・サルビア二十本)を全組合員に配布しました。

なお、支所事業については、口蹄疫の関係で夏の牛舎環境調査及び野外パーティーは中止となりましたが、牛舎内外の環境美化と牛乳生産管理チェックシートの記録・記録は、引き続き徹底して頂きます様宜しく願います。

### 那須高原ET組合主催講演会

六月十六日、支所にて那須高原ET組合(渡辺信一組合長)主催により、口蹄疫並びにとちぎ和牛について講演会が開催され、二十五名が熱心に受講しました。

まず、県北家畜保健衛生所主査の齊藤俊哉氏から、「口蹄疫について」と題し口蹄疫の基礎知識や発生状況をはじめ、宮崎県と本県における防疫体制、消毒方法・関係法令・現場の状況等について説明されました。

次に、那須野農業協同組合営農経済部畜産課係長の篠崎剛氏から、「とちぎ和牛(那須和牛)について」と題し矢板家畜市場及び東京食肉市場の市況と、JAなすでの交配指導内容について説明されました。講演では矢板家畜市場の活性化と「とちぎブランド」の発展のため、酪農家による安定した優良な和牛ET産子生産を期待する旨を述べられました。

現在の酪農情勢の中で、乳肉複合経営は有効な経営手段の一つであり、収益増に繋がることと期待しています。



今回の講演会は、口蹄疫並びに和牛関連の情報が収集でき、有意義な一日となりました。

## 宇都宮支所

### 女性会那須南支部・塩谷支部

### 牛乳PR活動

六月二十日父の日に、女性会那須南支部は、「かましん大金店」および「かましん馬頭店」において牛乳PR活動を行いました。これは、栃木県酪農青年女性会議の「父の日に牛乳(ちち)を贈ろうキャンペーン」を受けて、「支部でもやってみましょう!」という興野礼子支部長の掛け声から役員を

中心に実施しました。牛乳売り場の前で買物に来てくれるお客さんに試飲を勧め、シッパー(フレッパー入りストロー)と父の日メッセージカードを配布しました。

特にシッパーは子供たちに大人気。また「かましん牛乳」は地元になり定着しており、「おいしい」との声をたくさん頂きました。

また七月四日には、女性会塩谷支部(羽田須美子支部長)役員メンバーでさくら市の直売所「菜っ葉館」の七夕イベントにて、那須だいき牛乳の試飲と販売を行いました。通常店頭でも販売しているので、キャンペーンとして精一杯PRをしました。



防疫面から遠方への研修や視察などを自粛せざるを得ない状況下、何か自分たちで出来ることをと実施したPR活動。実際の消費者の声を聞きながら販売できたことも良い経験ですし、今後の消費拡大に少しでも貢献できたらと願っています。



## 県南支所

### 女性会芳賀支部研修会開催

七月九日、女性会芳賀支部(井沢尚子支部長)は、支部員三〇名が参加し、講師に(有)タマノアニマルクリニック玉野慎也院長を招き、「乳牛の疾病発見と搾乳意識について」と題し研修会を開催しました。

玉野氏は、毎日の飼養管理のなかで酪農家が見つける疾病事例、体温測定的重要性、PLテストの活用法、家族全員の意識統一の重要性等の説明を行いました。また、これからの求められるものとして、「乳房炎発症率三%以内、疾病の早期対応、ストレスを与えない飼養管理」が大切と話されました。さらに、直に実施すべき対策の他、乳房炎予防について、搾乳技術の向上、基本に忠実なミルクカー洗浄等について解り易い説明がされ、乳房炎で悩む方への搾乳模範例を示し、参加者の技術向上が図られました。

質疑応答では、研修の内容・発情の発見方法、繁殖改善対策等について活発に質問がなされ、有意義な研修会となりました。



# 部課だより

## 生乳販売課

六月度組合の生乳生産量は前年比九六・二％（一七、五二五トン）、関東の受託乳量は前年比九七・六％となりました。

各支所別生乳生産量・乳質成績はグラフのとおりです。

出荷組合員数は五五六戸（前年五七六戸）、学校・公共団体五戸（前年四戸）でした。

六月の関東の受託乳量は前年を下回っているものの、飲用牛乳向け処理量が前年を下回ったことなどから加工率は前年を〇・四〇％ほど上回る結果でした。また、関東の用途別販売数量は別表のとおりです。

第一四半期（四～六月）累計では組合の生乳生産量は五三、八二六トン（前年比九五・六％）で、関東生乳販連から配分された月別目標（配分）数量に対しては、四月・九八・九％、五月・九九・〇％、六月は一〇〇・四％とで累計では九九・四％の生乳生産量で推移しております。

関東の累計受託乳量は二五、五〇二トン（前年比九六・三％、累計目標数量比九九・四％）と前年を下回る受託乳量となりましたが、加

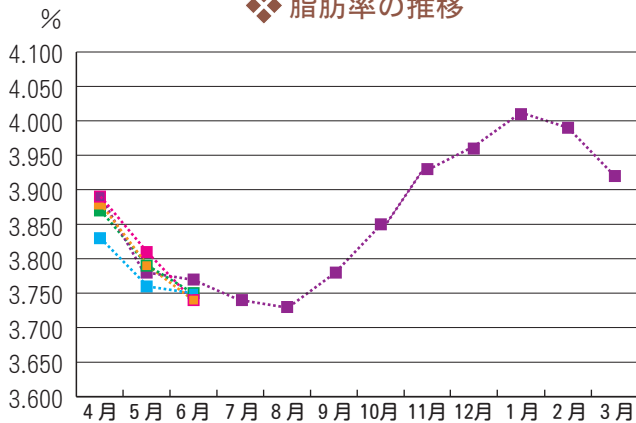
関東生乳販連用途別販売数量

（単位：kg・％）

用途	6月実績	前年実績	前年比	4-6月実績	前年実績	前年比
飲用牛乳向け	77,790,422	81,374,433	95.6	228,572,304	243,231,544	94.0
（うち学校向け）	14,688,157	14,713,672	99.8	37,249,787	37,377,601	99.7
はっ酵乳向け	15,362,935	14,822,374	103.6	45,119,115	45,284,065	99.6
特定乳製品向け（加工）	6,517,630	6,256,560	104.2	33,429,736	31,272,609	106.9
（うち委託加工向け）			-	4,291,590		-
生クリーム向け	2,514,321	2,290,723	109.8	8,160,980	7,506,043	108.7
チーズ向け	75,916	62,728	121.0	219,951	195,483	112.5
総受託乳量	102,261,224	104,806,818	97.6	315,502,086	327,489,744	96.3
加工比率	6.37	5.97	-	10.60	9.55	

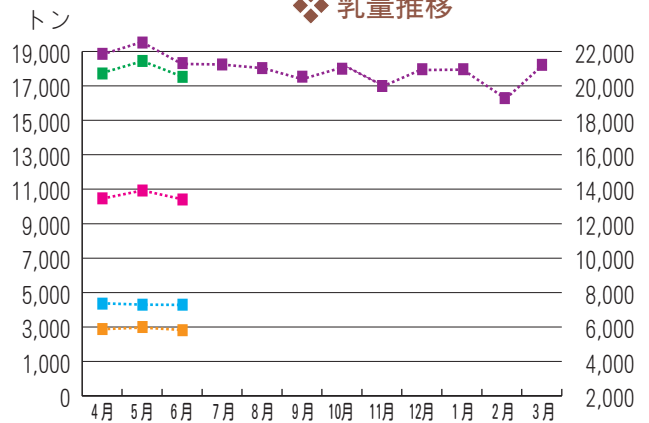
工率が前年を上回る結果となった要因は選択的拡大生産量の処理を実施していること及び飲用消費の低迷等の影響と思われまます。現在、関東の受託乳量は前年を下回る数量で推移しておりますが、関東の生乳生産目標数量（受託乳量）に対し乳業者（メーカー）が希望する取引量が低いため、生産見込量全量を販売（処理）することを基本に交渉を進め、乳業者との交渉も終盤に入っております。このような状況をご理解の上生乳計画生産にご協力くださるようよろしくお願いいたします。

### 脂肪率の推移

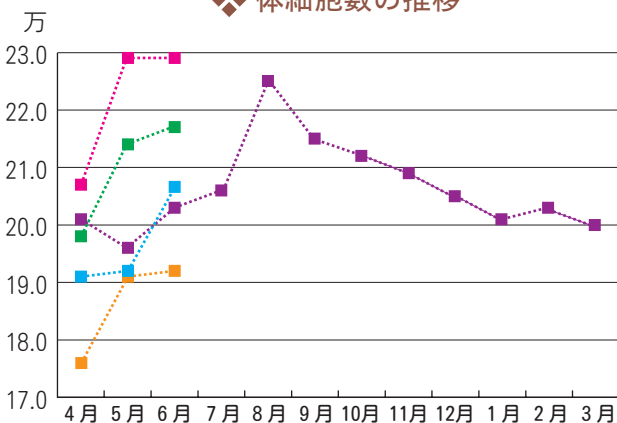


■ 那須高原 ■ 宇都宮 ■ 県南 ■ 平成22年度 ■ 平成21年度

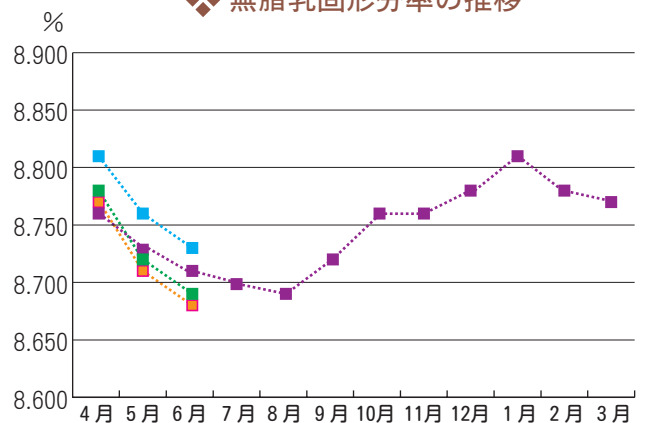
### 乳量推移



### 体細胞数の推移



### 無脂乳固形分率の推移



# 業務部

七月一日現在での乳牛飼養動態調査の結果を以下の通りご報告致します。

## 一 出荷者戸数について

昨年九月の調査以降の酪農中止者は十六戸（九月比三％減）で五五六戸となりました。酪農中止の理由は、高齢や後継者がいないが九戸、経営転換や他産業への転業が三戸、死亡・病気療養その他が四戸となっています。

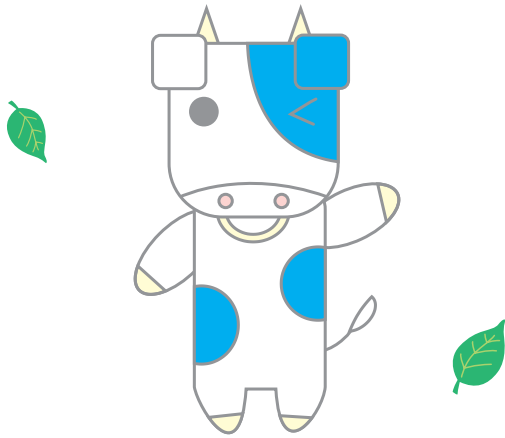
## 二 飼養頭数について

団体を除く飼養頭数は前年九月より四三三頭（一・二％）減少し三六、〇六八頭でした。そのうち、経産牛は六五九頭（二・六％）減少し二四、八八八頭、自家育成は三一六頭（一・二％）減少し八、七八〇頭でしたが、外部預託牛については三三九頭（一五・九％）増加して二、四〇〇頭でした。一戸平均の飼養頭数は〇・六頭増加して、六四・九頭です。自家育成コストとの優位性からか外部預託が増加傾向にあります。

## 三 分娩頭数について

七月から一月までの分娩予定頭数は、前年同期に比べ五二二頭減少し一三、五八六頭です。十一月、十二月は前年並みですが、それ以外の月は前年を下回り、特に七月、八月が大きく下回っており需要期である十一月までの生産増は期待できない状況であると思われます。

また、品種別受胎状況は、ホルスタイン種五五・六％と前年と同率で、交雑種は三七・五％と〇・六％増加し、逆に和牛E.Tは六・九％と〇・六％減少しています。



## 乳牛飼養動態調査表

(平成22年7月1日現在)

支所別	調査年月	出荷者数	飼養頭数								1戸平均飼養頭数	繁殖和牛経産牛数	月別分娩予定頭数								
			経産牛			自家育成牛		外部預託牛					合計	H22.9月	8月	9月	10月	11月	12月	H23.1月	合計
			搾乳	乾乳	小計	初妊	未種付	初妊牛	未種付	合計											
那須高原支所	H22.7 (構成比)	346	12,761	2,023	14,784	1,887	3,841	418	1,149	22,079	63.8	516	1,188	1,130	1,113	1,081	1,158	1,215	1,132	8,017	
	H21.9 (構成比)	356	13,261	2,008	15,269	1,705	4,083	469	874	22,400	62.9	496	1,260	1,266	1,185	1,173	1,165	1,203	1,204	8,456	
	増減	▲ 10	▲ 500	15	▲ 485	182	▲ 242	▲ 51	275	▲ 321	0.9	20	▲ 72	▲ 136	▲ 72	▲ 92	▲ 7	12	▲ 72	▲ 439	
宇都宮支所	H22.7 (構成比)	100	3,321	541	3,862	559	1,076	99	309	5,905	59.1	161	307	344	342	293	310	297	272	2,165	
	H21.9 (構成比)	104	3,379	561	3,940	565	1,186	97	229	6,017	57.9	179	344	353	378	295	310	322	338	2,340	
	増減	▲ 4	▲ 58	▲ 20	▲ 78	▲ 6	▲ 110	2	80	▲ 112	1.2	▲ 18	▲ 37	▲ 9	▲ 36	▲ 2	0	▲ 25	▲ 66	▲ 175	
県南支所	H22.7 (構成比)	110	5,354	888	6,242	459	958	95	330	8,084	73.5	297	499	439	532	541	487	467	439	3,404	
	H21.9 (構成比)	113	5,402	936	6,338	422	922	121	281	8,084	71.5	263	495	498	476	465	473	455	450	3,312	
	増減	▲ 3	▲ 48	▲ 48	▲ 96	37	36	▲ 26	49	0	2.0	34	4	▲ 59	56	76	14	12	▲ 11	92	
小計	H22.7 (構成比)	556	21,436	3,452	24,888	2,905	5,875	612	1,788	36,068	64.9	974	1,994	1,913	1,987	1,915	1,955	1,979	1,843	13,586	
	H21.9 (構成比)	573	22,042	3,505	25,547	2,692	6,191	687	1,384	36,501	63.7	938	2,099	2,117	2,039	1,933	1,948	1,980	1,992	14,108	
	増減	▲ 17	▲ 606	▲ 53	▲ 659	213	▲ 316	▲ 75	404	▲ 433	1.2	36	▲ 105	▲ 204	▲ 52	▲ 18	7	▲ 1	▲ 149	▲ 522	
*1 団体	H22.7 (構成比)	5	74	53	127	39	38	0	204	40.8	28	11	11	8	7	9	8	7	61		
	H21.9 (構成比)	4	49	13	62	13	18	0	93	23.3	19	15	18	4	9	6	2	4	58		
	増減	1	25	40	65	26	20	0	111	17.6	9	▲ 4	▲ 7	4	▲ 2	3	6	3	3		
合計	H22.7 (構成比)	561	21,510	3,505	25,015	2,944	5,913	612	1,788	36,272	64.7	1,002	2,005	1,924	1,995	1,922	1,964	1,987	1,850	13,647	
	H21.9 (構成比)	577	22,091	3,518	25,609	2,705	6,209	687	1,384	36,594	63.4	957	2,114	2,135	2,043	1,942	1,954	1,982	1,996	14,166	
	増減	▲ 16	▲ 581	▲ 13	▲ 594	239	▲ 296	▲ 75	404	▲ 322	1.2	45	▲ 109	▲ 211	▲ 48	▲ 20	10	5	▲ 146	▲ 519	

(初妊牛、未種付牛のみ飼養)

\*1 団体の件数は、高校2校、農大1校、大学1校、酪農試験場1ヵ所



# 理事会だより

## 六月度理事会

### 報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 組合プール乳価について
- (三) 職員人事について

### 協議事項

- (一) 五月度事業実績について
- (二) 役員及び組合員慶弔規程の改正について
- (三) 栃木県畜産農業協同組合連合会の役員選任について
- (四) 夏季手当の支給について
- (五) 口蹄疫発生時の対応について
- (六) 口蹄疫被災酪農家に対する支援互助金について

## 六月度臨時理事会

### 協議事項

- (一) 役員報酬の配分について
- (二) 専門委員会分担について
- (三) 栃木県畜産会館の役員選任について

## 七月度理事会

### 報告事項

- (一) 資金貸付について

- (二) 組合プール乳価について
- (三) 乳牛動態調査結果について
- (四) 監査指摘事項(購買事業)に対する対応について

(五) 「国産粗飼料増産対策事業」に関する農機具導入の入札結果について

(六) 固定資産取得計画に基づくPC・事務複合機等の入札結果について

(七) 夏季手当の支給について

### 協議事項

- (一) 六月度及び第1四半期事業実績について
- (二) 酪農ヘルパー傷病時利用互助会規約の一部変更について

## お知らせ

### 口蹄疫被災酪農家支援互助金

宮崎県において発生した口蹄疫の影響により、患畜及び疑似患畜の殺処分、ワクチン摂取によって生産中止となった酪農経営が六月二十一日段階で五十三牧場、生乳の生産量では宮崎県の15%に相当する量となり、被災酪農家の経営的な打撃と精神的な痛手は大きなものがありました。組合員の皆

様方からは被災酪農家への支援について多数の声が寄せられ、六月の理事会にて全国的な支援互助に沿って支援活動を行うこととし、先日ご案内「二十二酪とち総務部発第十五号」の内容でのご協力を頂いた処です。尚、ご協力頂いた支援互助金につきましては、各指定団体(本組合は関東生乳販連)から中央酪農会議を通じ、被災した酪農家の復興に役立たれます。皆様方の特段のご理解、ご協力に感謝するとともに、一日でも早い復興を願います。

### 支援互助金内容

組合員	2、822千円
職員	451千円
合計	3、273千円
協力者数	646名

### 新役員御紹介

役員推薦会議において、欠員となっていた黒磯地域より、理事の候補者として菊地正明氏が推薦され、去る通常総会において役員選任が可決されました。菊地理事は所信として「生産者の立場で組合運営を行う」とし、牛乳の消費低迷に伴い減産型の計画生産が続く

厳しい状況中ですが、皆様の期待に心えるよう努力して行きたいと就任の挨拶を述べられました。



菊地正明理事

### 防疫体制を継続しましょう

口蹄疫の発生した宮崎では、畜の移動制限が解除されたものの、発生原因が判明しておらず、引き続き警戒が必要です。

六月中旬に職員が炭酸ソーダの配布を行い、牛舎等で利用して頂いていると存じますが、防疫体制の強化は、口蹄疫に限らず各種伝染病の予防に有効な手段であり日常化することが必要です。

各戸の防疫体制の強化が地域の防疫体制の強化につながり、被害を最小限に止めることが可能となりますので、今後も継続し実施願います。

